



「あめあめ ふれふれ かあさんが じゃのめで おむかい うれしいな
ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン」 作詞：北原白秋 作曲：中山晋平



皆さんもよくご存知の童謡で、歌われたこともあるでしょう。雨降りの中、子どもの生き生きとした姿がうかぶ歌ですね。

梅雨となり、雨がしとしとと降り、気が滅入ることもあるでしょうか。でもこの雨は、秋の実りにとってとても大切な雨なのです。

紫陽花が道端や花壇で雨に濡れながらきれいな花を咲かせています。その側を子どもたちが傘をさし、長靴を履いて水たまりで遊んでいる元気な姿が見られます。

女子児童・生徒の化粧について考える

「青少年育成センターだより第9号」（防府市のホームページ「青少年育成センターだより」に載せています）で、放課後の子どもの姿で気になることとして、「どこでもスマートフォンを操作している」「女子中高生が化粧をしている」「平日に多くの子どもたちがゲームコーナーで遊んでいる」の3つを紹介しました。今号では、その一つである「女子中高生の化粧」について考えてみましょう。

皆さんは、女子生徒の化粧についてどのように思われますか。必要なのでしょうか、それとも不必要なのでしょうか。「青少年育成センターだより第9号」では、女子中高生の化粧が気になると書きましたが、最近では、当時よりも化粧をした高校生、中学生の姿を見ることがもっと多くなりました。そして、小学生が化粧をしている姿も度々見かけるようになりました。以前、高校で生活指導をしておられる先生方の会議で、「生徒の化粧については、どのように指導をされているのでしょうか？」ということ質問したところ、市内のどの高校でも「化粧については認めていない」という回答でした。それは、高校生だけでなく、中学生も小学生でも同じことでしょう。学校では、子どもたちが化粧をすることは認められていないのです。

思春期にある子どもたちは、自立心が強くなります。人に認めてもらいたい、人と違うことをしたい、また決まりを守ることはカッコ悪いなどの気持ちが出てきます。化粧をする子どもには、綺麗に見られたい、自分を見てほしい、認めてほしいという思いがあるのでしょうか。その気持ちを理解できないわけではありません。

しかし、化粧に時間をかけるよりも、勉強をし、礼儀や常識を学び、そして心や体を鍛える部活動等に熱中する時間にすることが大切なのではないのでしょうか。そして、若いときに化粧をすることによる肌の健康被害も気になります。また、化粧が派手になるにつれ、服装も乱れてきた結果、トラブルに巻き込まれるという危険性もあります。

テレビで見るアイドルたちは、綺麗に化粧をしています。あの姿を見て、真似をして、自分も綺麗に見られたいという気持ちは理解できます。子どもたちが化粧をする必要がある場面もあるかもしれません。でも、普段は必要ないことでしょう。子どもには安易に同調するのではなく、親として、大人として、子どもと話をする中で、化粧が不必要である理由をしっかりと教えていくことが大切なのではないのでしょうか。皆さんは、どのように思われますか？